

# 能登半島各地で支援活動



## 笑顔と喜び、そして元気を頂きました

11月26日(火)、内灘町向栗崎公民館にて「クリスマスリース作り」のワークショップを開催しました。参加者14名、スタッフ9名で、楽しいひとときを過ごしました。

# ひかり新聞

共生共助の社会をめざす

2024.12.20  
No.51

一般社団法人  
ひかりプロジェクト

### ★<sup>わたびき</sup>綿引みづほさん (東京都世田谷区)

能登ボランティアを無事に終え、なんととも言えぬ幸せな気持ちでいっぱいです。一年近く経ってもまだまだ復旧されていない被災地の現状を、実際に目の当たりにし、テレビや新聞の映像とはまた異なる光景に、かなり衝撃を受けました。どれだけ恐ろしく悲しい思いをされたんだろう、想像を絶する世界でした。

当日は平日で、働いている方も多く、来てくださるか不安でしたが、皆さん笑顔で、「楽しみにしてました!」と開始時間前からいらしてくださり、出上がったクリスマスリースを大切に抱えて帰られる、幸せいっぱいの笑顔に包まれて、ああ、来させていだいてよかった! 非力で何もできないと思っていた私が、少しでもお役に立てたこと、皆さんにお教えできるものがあったことに喜びを感じました。そして、その幸せに浸っていた晩に突然の地震。恐怖でした。「ずっとこんな怖い思いをされているんですよ」、神様が私たちに身をもって体験させてくださったのかも知れません。帰京すると、何事もなく行き来する人々、雑踏、とにかくもうこれ以上被害が及ばないことを祈るばかりです。被災者の方々の笑顔と温もりが忘れられません。またできることがあれば、ぜひさせていただきます!

### ★<sup>いしい</sup>石井さゆりさん (東京都中野区)

今回のボランティア活動は親子3人で参加し、いろいろ学ぶことが多かったと痛感しています。

新聞やテレビの情報と違い、実際に自分の目で見る被災地の景色は衝撃的

でした。

「クリスマスリース作り」の集会にあたり、一人でも多くの方に来ていただきたいと願い、息子と仮設住宅を一軒一軒回って声をかけました。「取材はお断りします!!」と紙に書いて貼ってある家もあり、なかなか出てきてくださらなかつたり、私たちが考えているほど簡単なことではないと思いました。でも、必死でスピーカーで声かけしたり、一人ひとりと話をしたことで、少しでも心が通じた気がしました。

この楽しい集会は、来てくださった方にハッピーな気分になっていただきたいと願い、幸せそうにリースを持って帰られる姿を見て、「本当によかった」と感動しました。

### ★<sup>すずき</sup>鈴木みき子さん (愛知県名古屋市中区)

私は、認知症予防リーダーの講習を受けたことがあり、休憩時間に、「お口の体操と頭の体操」をさせていただきますました。皆さん一緒に、楽しくやってくださいました。

途中から参加された女性は、部屋で一人でテレビを見ていたそうですが、リース作りはせず、ずっと話をされていました。私が代わりに作ったリースを喜んで持って帰られました。皆さん喜んでいただけて嬉しかったです。

### ★<sup>いしい</sup>石井延雄さん (東京都中野区)

大勢の方に集まっていたいただきよかったです。皆さんさぞかしご苦労されていると思いますが、暗い顔をされている方は誰一人おられません。皆さんに感謝され、「こんなに楽しい経験は生まれて初めて」との声を聴き、やってよかったなと改めて思いました。



# 笑って歌ってお茶会

9月28日(土)／七尾市中島町・29日(日)／志賀町富来

★工藤信子さん(山形県大童市)

被災者の助かりを  
祈り続けていきたい



みんなで楽しく歌いました  
歌の指導：高橋環さん、伴奏：工藤信子さん

テレビで何度も目にする災害の映像を見るにつけ、何もできないもどかしさをいつも感じていましたので、今回参加できて、とてもよかったです。

活動内容は仮設住宅の方々と交流会で、落語と茶話会と歌の会という盛りだくさんの楽しい企画でした。

1か月前に急遽、歌の伴奏とオカリナ演奏を担当することになり、不安の中で毎日練習しました。もちろん自分のためだったのですが、練習をするたびに被災者の方々への思いが募り、不安よりもお役に立ちたいという気持ち

がどんどん強くなっていきました。

交流会では最初に落語を聴き、スタッフも一緒になって大笑いしました。参加者の方から「こんなに笑ったことは久しぶりです」という声もあり、楽しんでいただきました。

茶話会では各グループに分かれて、お茶菓子を頂きながら懇談しました。

私のテーブルでは、山形県の話をする、東北を観光したことがある方がおられ、話が弾みました。将棋が好きで大童市のことも知っておられました。

また、同じテーブルに偶然座った方が、仮設住宅が近かったことがわかり、「これからは挨拶しましょう」と、このイベントをきっかけに輪が広がったことがうれしかったです。仮設住宅では、まだまだ部屋に閉じこもっている人が多く、近所でも分からない人がたくさんいるという話も聞きました。

歌の会では、皆さんが楽しそうに歌っておられ、オカリナ演奏の時は一緒にハミングしてくださり、とても感動しました。皆さんに元気になってほしいと思っていたのに、逆にこちらが皆さんから元気を頂いた気がします。

参加者の方から「歌って元気になる」「ふるさと」を歌って、故郷を思い出してジーンときた「来てくれてありがとう」などの声を聞き、遠くから参加して本当によかったと思いました。2時間という短い時間でしたが、皆さんと一緒に楽しく過ごすことができ、本当に

うれしくありがたいことでした。ブルーシートがかけられている家々や崩壊した建物を目にした時、被災地の方々と触れ合ってみて、これからも能登に心を寄せていきたいという願いを新たにしました。遠く離れた東北の地で、被災地の方々の今日一日の助かりを、これからも祈り続けていきたいと強く思います。

★神谷眞裕さん(大阪府羽曳野市)

【社会人落語家・河内家雷三さん】

## お笑いで笑顔を届ける

ご縁のはじまりは50数年前の高校生の時、学校の事務室へ授業料を納めに行って、そこにおられたのが大田陽子さんでした。卒業後、「ある集会で落語をしてほしい」と招かれました。

月日は流れて2018年、「熊本地震で被災された方々に笑いと歌やおしゃべりで元気を届けたい」とお声がけ頂き、仮設住宅3カ所において落語でお笑いを届けさせていただきました。



大阪のオバちゃんの話は大いにウケました(七尾市中島町)



会場は笑いの渦に包まれました(志賀町富来)

あれから5年、2024年元日、今度は能登半島で大地震発生。被害は甚大。第一段階の災害廃棄物運搬などの肉体的な支援に加えて、熊本地震の時と同じように、被災者の方々の孤立を防ぐのを目的に、またお声がけを頂きました。

もちろん二つ返事で参加。9月28日は七尾市へ、翌29日は志賀町へ。2カ所とも拠点からは2時間近く、道中には未だに屋根にブルーシート、ペシヤンこの家もありました。

両会場とも、おそらく生の落語は初めてのみなさん。みなさんの方が緊張気味?! こちらは大阪弁が通じるか心配!! ところが、話し始めると、うんうんと、うなずきながら聞いてくださる方もおられ、お顔もほころび、笑いは笑いを誘発するもので、たくさん笑い声を頂き、「笑って」の担当者としては、ほっとひと安心した次第です。

「歌って」の中ではたくさんさんの歌の中の「故郷」を振り付けつきで大合唱、大盛り上がりになって、ほっこりしました。



★高橋環さん（福島県伊達市）

### 楽しむ時間も大切

このたびの交流ボランティアでは、仮設住宅で避難生活を送る皆さんに、ひとときの癒しの時間を過ごしていただくことができました。

メインの落語は、家族の会話が進むやり取りに大きな笑いが起き、落語でこんなに笑ったのは初めてだという声が聞かれました。笑いで心がほぐれたところで、オカリナとキーボード伴奏による合奏、歌に合わせた体操にも積極的に参加してくださり、和やかな雰囲気の花の会になりました。

この1週間前に能登で大きな豪雨災害が起き、楽しむ心境でおられるだろうかと若干の不安がありました。最初の会場・小牧集会所のスタッフさんの「みんな落ち込んでるので、たくさん笑わせてあげてください」との声かけにホッと、楽しむ時間の提供も必要な支援だと改めて感じました。

最後の曲『ふるさと』で、胸が詰まり涙がこぼれた...という声に、地震を境



工藤信子さんのオカリナ演奏

に生活が一変し、震災前の日々を思う切なさや深い喪失感が伝わってきました。話しやすくなるようにと一人ひとりに準備されたお菓子の話合せと飲み物を手渡ししながら、9か月間、水の出ない生活の大変さ、地震への備えがなかった後悔や、災害を受け入れる心の葛藤など率直な気持ちを聴かせていただきました。80代の女性は、潰れた家が今も片づかないこと、仮設住宅を出た後の住居がなく、その前に死にたいとも口にされていました。

仮設住宅に集会所の設置がないため被災者間の交流が進まず、初めて会話をするとという方もおられ、今回のボランティアが住民同士の交流を深めるきっかけとなったことをありがたく感じる一方で、行政機関など生活をサポートする側も被災者で手が回らず、災害の大きさに対し公的支援も民間支援も人材が不足していることを実感しました。現地を訪れて当事者の現状を知ったことで、お一人おひとりの生活再建を祈る気持ちがより強くなりました。

★佐々木睦美さん（愛知県名古屋市中区）

### 他人事ではないと思いつ

「笑って歌ってお茶会」に参加して、今一番感じているのは、能登に心を寄せる思いが以前にも増して強くなっているということ。やはり被災者の方たちと直接お話ししたからでしょうか。ニュースを見ていると他人事ではないんです。あの時お話しした方たちの顔が、お話しされていたことが、その



参加したいです。笑顔をいっぱい届けられますように...

★久田博志さん（石川県金沢市）

### 心が温かくなります

9月28日(土)・29日(日)、「笑って、歌って、お茶会のお手伝い」をさせていただきました。落語の高座をその会場にある物で作っていくことに感心しつつ、一緒にお手伝いしました。2日目は仮設住宅が立ち並ぶ隣の施設が会場でした。参加された方々から「久しぶりに笑ったり、みんなで歌も歌わせていただいた」との声を聞き、また施設の方から「こんなにたくさんの方が集まったのは久しぶりです」とも言っていた。会場作りなどしかしてはいない私も「喜んでいただいていたよかったです」と心が温かくなりました。

都度思い出されます。

「歌はいいね、明るくなるね」2回りは知らない人ばかりで一日中、家の中にいるから、こういう会をもっとやってもいいです。

「また来ますね」って約束しました。是非また参加したいです。笑顔をいっぱい届けられますように...

また、11月26日(火)には内灘町で「クリスマス作り」ワークショップの会場作りなど、お手伝いをさせていただきました。

9月と11月、2回にわたり歌を歌ったり、声出しなど行いましたが、仮設住宅内で生活をされている方々は「みんなて集まり大きな声を出したり、歌を歌うということをごではしてないね」という話を聞かせていただく、イベントを行う意味も分かり、なるほどと思いました。

地震からまもなく1年になります。が、まだまだ復旧、復興ははかどっておらず、最近はボランティア活動の人も少なくなっており、石川県として企業に対しボランティア活動に参加していただくよう呼びかけをしています。私も、できるかぎり今後も続けて活動に参加したいと思っています。



当日のスタッフ



# おしゃべりサロン・マッサージ・マジックショー

11月18日(月)／志賀町富来・19日(火)／内灘町

★池田 啓子さん (広島県広島市)

## おしゃべりサロンとマッサージ



私のマッサージは、優しく手で触れて「筋肉を緩める」ことを目指しています。最初に「マッサージをしてほしいところはありますか」とお聞きするようになっていきます。横になっていただいて、お聞きした場所から始めます。

手から伝わってくる感触から筋肉の状態を把握して、それをお伝えしたり、日頃気になっているお身体のことを聞くなどしてお話しをしますが、あくまでも傾聴を基本としています。話すとは、「胸にあるものを放す」と心得ています。

後から聞いたことですが、マッサージを終えて元の席に戻りながら「気持ち良かった」と言いながら座ったから、周囲の人から「顔が明るくなっているね」との声掛けがあったそうです。

多くの方に喜んでいただき、身体と心の癒しに役立てたことは、ありがたいことでした。

今回の企画は、多くの方にマッサージを体験してほしいとの願いがあり、お一人15分程度でしたが、次の機会には、もう少し時間を延長してみたいと考えています。

★岡田 清陽さん (兵庫県姫路市)

## マジックで和みを届けます

ひかりプロジェクトのメンバーより、被災者支援の11月のイベントを計画しているので、協力していただけないか?と問い合わせがありました。

私に何ができるのか?と問いながらも、「今回は、瓦礫撤去や掃除などではなく、仮設住宅等に住まわれている方などの傾聴ボランティアを中心に、マッサージや軽い運動、ゲーム、マジックなどと、お茶を飲んだりお菓子を食べながら交流していただきたい」とのことでした。

2日とも、それぞれ午前・午後の2回ずつの予定で、計40名近くの方が参加してくださいました。スタッフは延べ14名でした。

参加者の皆さんは、「今まで、その日その日が精一杯で、あまり気持ちを打ち明けることができなかった」「聴いてくれる人がいて、やっと口を開けた」「自分の家族、自分の家が好きで、ここを離れられない」など、いろんな話をしてくださいました。



せられている。電柱が倒れたままの所、道路に段差や亀裂ができている所もたくさんあり、まだまだ応援が必要だと感じました。

今回、マジックと傾聴で参加しましたが、マジックで少し失敗したところ、その失敗の方が、大受けし、皆さんに喜んでいただきました。これからも協力していきたいと思っています。

★三浦 徳代さん (富山県射水市)

## おしゃべりサロンと マッサージの会に参加して

この催しは、被災された方々、特に仮設住宅に入居されている方々に、外に出てお話しをし、交流して元気になっていただきたい、という願いのもと開催されました。

4、5人のグループに分かれ、お茶を

頂きながらのおしゃべり、マジックショー、軽い運動などで楽しみ、抽選でマッサージを受けてもらいました。

町の社会福祉協議会の方々や区長さんも来られ、「このような企画をしていただき、とてもありがたい」と言われていました。仮設住宅で一人暮らしをされている方は、「寝るのも食べるのも同じ部屋で、テレビを見ながら一日を過ごしていると、誰とも喋らない日もある。お話しをし、いろいろな反応があった、一緒に笑えるのはとてもうれしい」と、にこやかにおっしゃっていました。能登半島ではこれから雪の降る季節になります。外に出て行くのがますます大変になってきます。このように気楽にお話しをし、つながりが持てる機会が増えたいと思います。





# 能登半島各地で復旧ボランティア活動

★**菱田 祐之輔さん**（東京都墨田区）

## 初めてのボランティア活動

10月1日より3日間、輪島市河井町・門前町の2つの被災地で水害ボランティア活動をさせてもらいました。



被災地の状況

初日の河井町では、泥まみれなタンスなどの家具・家電製品、また家具と比べ比較的小さい、缶・ペットボトル、ガラスなどを分別し、種類ごとに土のう袋に集め、大きいものからそれぞれ軽トラックにパズルのように積み込みました。こんなにも分別を細かくしなければいけないことに驚きました。



泥だらけの作業

また浸水したお家を見させて頂き、そこでは全身カッパで防塵マスクを着けた人たちが泥だらけになりながら大

きなスポンジで床下の水を吸ってバケツに集めて搬出していった光景が衝撃的でした。



スポンジで水分を吸収

2日目は、より被害が酷かった門前町浦上地区に行きました。そのお家は室内の廃棄物の排出、運搬と泥のかき出しをしました。泥まみれになり、とても大変でしたが、分別など初日の経験を少し生かすことができる場面もあり、よかったです。



搬出作業

最終日は残念ながら雨のため中止になってしまいました。

初めてボランティア活動をしてみて、現地の情景、臭い、地震から約9カ月が経った今でも、当初と大きな変化がないボコボコの道路などに衝撃を受けました。同時に、まだまだボランティアが必要だと感じさせられました。

★**西川 浩明さん**（宮城県仙台市）  
「みちのくボランティア隊」

## 能登地震・水害

### ボランティアに参加して

11月12日(火)、能登半島地震ボランティアに参加させていただいた。訪れたのは輪島市中心部にある輪島塗の店。



私と同年代と見受けられる優しいそうな店主ご夫妻によると、「17年前の地震で半壊。修繕した店舗が今回の地震と大雨で再び半壊・水没した。かろうじて残った建物をひとまず作業場として使いたい」ということだった。



家財はすでに搬出され、壁もほぼ剥がし終えた状態から、各地から参加したボランティア6名で床がしにかかった。

床板と根太材がボンドで接着されていたため、きれいに剥がすのは難しかったが、インテリアールとハンマーを使って、少しずつ削り取るようにして剥がしていった。たった1日、それも

素人作業なので役に立てたとはとても言えないレベルだが、復興へのせめてもの気持ちを含め、できるだけ丁寧な心がけてハンマーをふるった。

昼食休憩を利用して、中心部を少し歩いてみた。メインストリートは乾いた泥が風で舞い、埃っぽく、人通りはほとんどない。崩れた家屋に傾いた街灯、道路や橋にはあちこち亀裂や陥没が見られた。

ボランティアハウスのある射水市からボランティアセンター（被災地NGO協働センター）のある七尾市まで車で1時間半、七尾市から輪島市まで1時間。その道中にもまた、ブルーシートに覆われた被災家屋がたくさんあった。いたるところで土砂崩れに道路補修工事。発災から間もなく1年が経とうとしているが、復旧作業のマンパワーがどうしようもなく足りていないという印象が強く残った。

人間や動物は、ケガや病気になった場合、薬がなくてもそれらを治そうとする自然治癒力が備わっていて、少々このことは放っておいても治るものだが、被災地の受けた傷はそういうわけにはいかない。被災地を治癒する力は人間一人ひとりの作業と協力、そして大きな祈りに基づく働きに他ならないと痛感した。





★おのぼやしみのり  
★大林 道範さん (滋賀県大津市)

ボランティア活動に参加して

「あす、私たちの仕事をずっと支えてきてくれた大型機械、関連設備を引き取りに来てもらうことになっていきます。今日中に、この奥の作業場からこちらの玄関まで、通路を確保しなくちゃいけないので、よろしくお願いします」  
これが、七尾市中島町の町工場に到着して受けた、具体的な作業の内容でした。依頼者は、テントとオリジナルTシャツの製作会社を運営されている方でした。

工場の建物は一見、何の不都合もないように見えたのですが、建物全体が基礎からズレており、解体しなくてはならないとのこと。

被災直後、その工場にとりあえず収容していた品々を、別棟の自宅に運ぶものと、廃棄するものとの選別、搬出する作業をしました。

「大きな借金をして、二年前に払い終



ボンドで接着されている床板と根太材を剥がす

って、さあこれからというときの被災で…、もう工場をたたみます…。田んぼや親の面倒をみなくちゃいけないからねえ…。やっとの思いで決断したというか…」

復旧、復興とは言うものの、その主人公は被災された方々であり、そこには日々のくらしが厳然としてあるということも、目の当たりにした瞬間でした。  
被災地は今、多くの方々、作業車が行き交い、解体工事や整地作業などで、街並みだけでなく、日々の生活をよりよいものにしていくこととしています。

でも、そこに暮らす人の心はひよつとすると、その変化に追いついていないこともあるのではないかと思えてきました。

支援活動に参加した者として、被災地、そして被災者のみなさんに思いをかけ続けていきたいです。その中で、思いがけない出会いがそれぞれに生まれ、一筋の光が射し込んできますようにと願いを込め、被災地支援活動を振り返っているところです。

★おのえいこ  
★小野 栄子さん (東京都品川区)

初めてのボランティア活動

能登半島地震災害ボランティア活動への参加を希望しておりましたが、個人では難しく、今回ひかりプロジェクトの活動に参加させていただきました。

◆11月12日(火)／七尾市

廃業される工場の片付け

◆11月13日(水)・21日(木)／輪島市

床上浸水の床をはがした後の作業、

床下浸水により固まった泥のかき出し作業等



泥水が乾燥した床下

◆11月18日(月)／志賀町

19日(火)／内灘町

おしゃべりサロンとマッサージ、マジックショーを楽しんでいただきました。

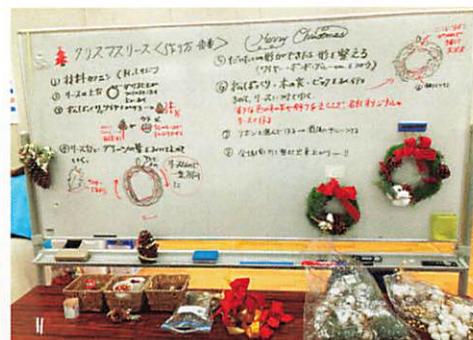
◆11月26日(火)／内灘町

クリスマスリース作りのワークショップでは、仮設住宅と近隣の方々にステキなリースをご自身で作ってお持ち帰りいただきました。



前夜、ボランティアハウスで準備する

皆さん熱心にリース作成中



ホワイトボードに書かれた作り方の手順



クリスマスリース完成!



寄り添い支援のイベントには、それぞれ周辺に配るチラシや掲示板に貼ってもらうポスターを作っています。

これまで作った3枚のうち、「おしゃべりサロンとマッサージ」、「クリスマスリース作り」の2枚は、私が仕事上親しくしている方に作っていただきました。

能登半島地震ボランティアが始まって以来、こういう活動をしていることをお話しして、帰ってきたら写真などをいつも見てもらっています。「何か手伝えることがあったら言って…」というお言葉に甘えておりました。

デザイン関係の仕事をしている人ではありませんが、いろんなソフトをお持ちで、それを活用しています。「すべてお任せします」と言いながら、「ああして、こうして」と無理なお願いをして、仕事の手を止めています。

「次は、春に予定している『歌声喫茶』にも頼みますよ」と、今からお願いしています。(藤原真久)



当日のスタッフ

街は復興とはほど遠く、傾いた電柱、隆起した道路、倒壊した家屋に悲惨さを痛感しました。被災者の皆さんが当時の様子を話してくださり、その後は

前向きに過ごされていくことに、こちらが勇気を頂きました。

11月26日内灘町から戻ったその夜、22時47分、輪島で震度5、ボランティアハウスのある射水市で震度4の地震がありました。日々、あの恐怖の中で過でされている能登の方々を思うと、心が痛みました。

石川県災害対策ボランティア本部では、珠洲市・輪島市の活動を11月28日〜30日は中止にしたと聞き、地震、悪天候、様々な要因により作業が進まないことも実感しました。

活動を申込んだ時期すべての企画に参加しましたので、その間、ボランティアハウスに滞在して、貴重な体験をさせていただきました。



和歌山市



和歌山城ホール

今年度は5回の出前講座が開催されました。前号で6月に東京都文京区で開催された出前講座を報告しましたが、その後、9月15日(日)に、和歌山市の和歌山城ホール大会議室で68名と、これまでで最も多い参加者で開催されました。

近く発生すると言われていた南海トラフ地震の影響が大きい地域のため、地震や津波に対する関心は高く、皆さん熱心に聴講されました。

## 開催地域それぞれの災害リスクを盛り込んで 防災出前講座 今年度5回開催

天童市



10月12日(土)には、人間将棋で有名な山形県天童市にある金光教天童町教会を会場に開催されました。参加者は40代から80代までの25名。

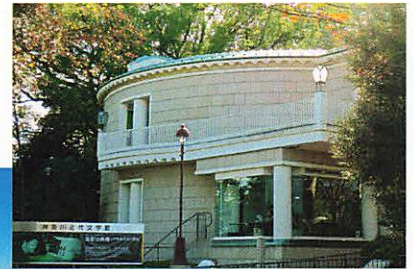
ここでの特徴はご近所の方が3名、また体の不自由な方が2名ほど参加しておられたことや、秋田県、福島県からも参加者があったことです。会場教会や参加者の皆さんの雰囲気がとても温かく、「防災」をキーとした地域に開かれた教会のあり方を見せていただけたと思います。



10月26日(土)には、埼玉県さいたま市にある金光教浦和教会を会場に、群馬・埼玉から23名が参加して開催されました。

ここでは、内7名の方々がオンラインで参加され、班別での「その時、あなたはどつする」という、様々な想定された地震が発生した場面において、取るべき行動についてのグループ討議も、オンライン参加者だけで班を作り、スムーズに行うことができました。

## さいたま市



## 横浜市

12月7日(土)、「港の見える丘公園」の一角にある『神奈川近代文学館』で、神奈川・山梨教会連合会の、令和6年度「講話と夕食の会」行事の一環として開催されました。参加者は15名。グループワークでは、地震発生時の想定課題に対して、各班とも活発に発言され、盛り上がりました。



2022年9月に始めた本講座ですが、これまでに10回開催しました。いずれも「地震・津波災害から身を守る」がテーマになっています。

南海トラフ地震や首都直下地震などの発生が迫っていると言われ、また正月に能登半島地震が起こったことも、皆さんの地震災害に対する関心の高さだと思えます。

それぞれの出前講座では、基本のプログラムは同じですが、会場と参加者の住んでいる地域を踏まえて、内容を一部変えています。その地域で過去に起こった地震災害や、今後想定される地震の災害リスクについて、担当の講師がいろんな資料を調べた上で、テキストを準備しています。

地震・津波災害に加え、大雨・洪水被害も、台風だけでなく線状降水帯の発生などで大きな災害が毎年起こっており、こちらをテーマにした出前講座も、ぜひ来年以降開始したいと考えています。



## 編集後記

今年の元日に発生した能登半島地震から1年が経とうとしています。

また、9月には豪雨災害に見舞われ、さらに復旧を困難にしています。

今号では、9月以降のひかりプロジェクトの支援活動に参加された、多くの方々に書いていただきました。豪雨災害後の泥かきや瓦礫撤去作業、そして仮設住宅での心のケア、寄り添い支援の様子を掲載しました。

これから冬本番。能登地方では厳しい寒さのなか、復旧作業、ボランティア活動は厳しくなることが予測されますが、被災された方々は、もつと厳しい、大変な日々の生活だと思えます。

これからも、仮設住宅での寄り添い支援で、歌声喫茶、楽器演奏、お笑い、マッサージ、手芸、小物作りなど、皆さんに喜んでいただけるような企画を考えたいと思っています。

特技や一芸のある方、お手伝いくださる方はどうぞご協力ください。お願いいたします。

(大江 靖)

**ひかり新聞** No.51 2024年(令和6年)12月20日

発行者：一般社団法人ひかりプロジェクト

〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口1975

電話 0555-72-8191 FAX 0555-76-6696

https://www.hikari-project.org E-mail:hpa-office@hikari-project.org